

いなりぎ
稲荷木遺跡

秦野市 No.11 遺跡



1. 縄文時代中期 住居跡



2. 縄文時代後期 敷石住居跡・配石



3. 縄文時代中期 住居跡 遺物出土状況



4. 縄文時代後期 配石墓

● 主な調査成果

2017 から 2021 年にかけて縄文時代中期および後期の集落跡の調査を行いました。中期の住居跡は環状に分布し、中央部には平面形が円形を呈する墓坑が集中的につくられています。複数の墓坑からは副葬品と考えられる石器が見つっています。また、住居跡の埋土中からは大量の土器・石器が出土しました。後期の住居跡は大きく3群に分かれています。同一の場所に繰り返し住居が建てられ、等高線に沿うように列状をなしています。住居跡の前面には列石および配石墓がつけられました。また、土器・土製品や石器などの遺物が大量に出土しています。このなかには、脚付きの土器や土偶、耳飾り、石棒、石製の垂飾品などの希少な遺物も含まれます。現在、膨大な調査成果をまとめる作業を行っています。

- 調査期間 2016年8月1日～2021年4月9日
- 事業者 中日本高速道路株式会社
- 調査原因 新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、奈良・平安、縄文、旧石器
- 所在地 秦野市戸川
- 遺跡位置 小田急小田原線渋川駅から北北西に約2.5km、水無川左岸に形成された河岸段丘上の西縁上

